



## わくわく小惑星ずかん

吉川 真 監修

恒星社厚生閣 大型本 95頁, 定価本体2,300円+税

読み物  
お薦め度  
5  
☆☆☆☆☆

私にとって小惑星と聞くと、小惑星イトカワを思い浮かべる。2010年春、私がJAXA宇宙科学研究所に研究員として異動した直後、はやぶさが地球に帰還した。その世界初の快挙とはやぶさの奇跡の生還、地球大気で燃え尽きる直前の地球の写真は多くの日本人の心をうち、多くのメディアで取り上げられた。一般公開で特別展示されたカプセルを見た感動を、私自身もよく覚えている。その興奮冷めやまぬ中、今度ははやぶさ2が小惑星「リュウグウ」に向けて打上げられ、2020年に帰還した。はやぶさ2は太陽系進化と生命起源の解明を目的とし、その成果は天文月報2022年6月号アストロケミストリー特集でも報告されている。

本書「わくわく小惑星ずかん」は、小惑星探査の第一人者である吉川真先生の監修で、個性豊かな小惑星の世界をポップなイラストを使って紹介している。はじめは惑星だと思われていた「ケレス」、ラッコみたいな変わった形の「イトカワ」、はやぶさ2が目指したコマ型の「リュウグウ」、彗星のなれの果てと言われる「ファエトン」など。探査機や赤外線天文衛星「あかり」の紹介もある。小惑星の世界を太陽系学校に通う小惑星「まこと」君が探検しに行く物語で、子供から大人まで楽しめる図鑑となっている。

私自身は小惑星の専門家ではなく、表紙を見て面白そうだと思い手に取ってみた。ぱらぱらとページをめくると、様々な小惑星のキャラクターが現れてくる。まずはラッコのような糸川博士にも似た「イトカワ」や乙姫様の「リュウグウ」といった可

愛らしいキャラクターが目を引く。どのキャラクターも、小惑星のもつ特徴や個性をよく抽出している点が面白い。また笑いの要素が多数散りばめられていて、思わずクスッと笑ってしまうに違いない。「まこと」君の人間ドラマ（小惑星ドラマ!?)も読んでほっこりした気持ちにさせられる。

でもそれだけではない。差し込みコラムでは、もっと知りたい様々な疑問もスッキリ解消できる。小惑星番号や大きさ、自転公転周期や軌道、発見者名、スペクトル分類など天体データも付記され、観測写真や小惑星の形成シナリオなど、最新の研究成果も掲載されて読み応えがある。私自身は太陽研究者であるが、小惑星の日食写真は初めて見た（陰影からごつごつした形状がわかる）。また小惑星「カリクロー」の輪は、国立天文台の数値シミュレーションの結果が引用されている。さらに「あかり」による観測で、水を多く含む小惑星の発見エピソードが綴られている。

小惑星に関しては、最近では小惑星衝突とかスペースガード、プラネタリーディフェンスという文脈で聞く機会も多い。小惑星衝突は、スペースデブリ、宇宙天気と並んで宇宙由来の人類の脅威である。さらに小惑星のもつ豊富な鉱物資源にも注目が集まる。また太陽系の小惑星の理解は、系外惑星の理解にとっても有用だろう。本書は天文宇宙検定委員会の推薦を受けたものである。小惑星の専門家も、それ以外の研究者も、宇宙に興味のある大学高校生も、是非ご家族と一緒にご覧頂くことをお薦めしたい。

西塚直人（情報通信研究機構）